

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 19 日現在

機関番号：21402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21720189

研究課題名（和文）第二言語作文のプロセスモデルの構築

研究課題名（英文） The construction of process model of L2 writing.

研究代表者

石毛順子（ISHIGE JUNKO）

研究者番号：40526050

研究成果の概要（和文）：

本研究は、第二言語での作文のプロセスモデルを構築することを目的とした。日本語学習者の日本語作文過程における母語使用率と母語使用方法を、日本語レベル別、母語別に分析をした。さらに、同じレベルにおける母語使用率と母語使用方法の母語による違い、同じ母語における母語使用率と母語使用方法の日本語レベルによる違いを分析した。また、日本語の前に学習することが多いであろう英語と母語の、日本語作文過程における使い方の違いも分析した。

研究成果の概要（英文）：

This research aims to construct process models in L2 writing. I clarified how often Japanese learners use their mother tongues in the Japanese writing process and how to use theirs in that process from the view of the difference of their Japanese proficiency levels and the difference of their mother tongues. I analyzed their writing process in the same proficiency level from the view of the difference of their mother tongue and in the same their mother tongues from the view of the difference of proficiency levels. I researched the difference of using their mother tongue and English which they learned before Japanese in the writing process.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学、日本語教育

キーワード：プロセスモデル・作文・第二言語習得

1. 研究開始当初の背景

第一言語の作文のプロセスモデルはすでに構築されているが、第二言語では構築されておらず、第二言語の作文プロセスの研究は第一言語のプロセスモデルの追試・支持にとどまっている。第二言語の作文のプロセスモ

デルを構築することは、近年注目を集めているピア活動などに代表されるような、第二言語の作文指導方法の発展を促進すると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第二言語の作文教育の現場に貢献できる、第二言語での作文のプロセスモデルを構築することであった。

3. 研究の方法

(1)実施

①実験対象者

日本語学習者 44 名（中国語母語話者 16 名、韓国語母語話者 14 名、英語母語話者 14 名）。日本語学習者の作文教育に寄与するという観点から、日本語学習者の多い中国語母語話者および韓国語母語話者を対象とした。また、プロセスモデルの一般化を目指すため、表記での類似性がある中国語、文法での類似性のある韓国語に加え、日本語と類似性のない英語を対照として設定した。

②手続き

本研究では考えていることを口に出すという発話思考法を用いた。まず、作文時にどんなことを考え、どのようにふるまうのかを知るために調査を行っているということを説明し、そのため、作文を行う時に考えていることを第二言語でも第一言語でもよいので、できる限り話すよう依頼した。

それから、発話思考法の練習を三段階に分けて行った。第一段階目の課題は四則計算、第二段階目の課題は第一言語での作文、第三段階目の課題は第二言語での作文であった。約 1 時間の練習後、第二言語で作文を書いてもらい、その様子をビデオ撮影した。辞書や教科書の使用など、作文に参加者が必要とするものはすべて許可されていた。実験に入る前に、参加者が沈黙してしまった際は、話すようにカードで指示するという教示がなされた。報告者は参加者と同室し、作文の様子を観察した。

本研究では、練習→作文に加え、最後にインタビューを行った。なぜインタビューを加えるかという、発話思考法でも言語化されなかった心の中の言葉（内言）を記録するためである。つまり、発話思考法によるデータ採集が難しかった場合のために、インタビューによる回想法を同時に行ったということである。まとめると、本研究の実験手続きは「発話思考法の練習→作文時のビデオ撮影→インタビュー」であった。

(2)分析

①プロトコル作成

撮影されたビデオデータを起こして、文章化する（プロトコルを作成する）必要があった。学習者の発話は第二言語の日本語のみならず、第一言語の英語、中国語、韓国語である可能性があるため、日本語およびそれぞれの言語に堪能な協力者にプロトコル作成を

依頼した。日本語部分をまず報告者がプロトコル化した後、協力者に外国語部分（参加者の母語部分）のプロトコル化と翻訳を依頼した。

②質的分析

プロトコル分析を行い、観察された行動をカテゴリー化した。その際、インタビューデータも合わせて参照した。第一言語によりプロセスに違いがあるのか、また第一言語が異なっても普遍的なプロセスがあるのか、合わせて検討した。

③量的分析

質的分析から得られたプロセスモデルのカテゴリーに、ビデオで観察された行動を当てはめてカウントし、量的な分析を行った。

4. 研究成果

(1)母語の違いによる作文過程の差異

日本語の作文過程において英語母語話者、中国語母語話者、韓国語母語話者では、英語母語話者でより母語が、中国語母語話者でより日本語が使用されていた。英語母語話者はテーマを選定したり、構成や内容を検討したりすることや文法や語彙に言及することのようなメタ的な使い方、中国語母語話者は日本語で書いたものを母語で読み返すことと編集、韓国語母語話者は日本語で書いたものを母語で読み返すことと日本語で書く前に母語で言語化してみるものの頻度がより高いことが明らかになった。

(2)同じ日本語レベルにおける母語の違いによる作文過程の差異

①初級

日本語の作文過程において英語母語話者、中国語母語話者、韓国語母語話者では母語使用率の有意な差は見られなかった。英語母語話者はテーマを選定したり、構成や内容を検討したりすることや文法や語彙に言及することのようなメタ的な使い方、中国語母語話者は日本語で書いたものを母語で読み返すことと編集、韓国語母語話者は日本語で書く前に母語で言語化してみるものの頻度がより高いことが明らかになった。

②中級

日本語の作文過程において英語母語話者、中国語母語話者、韓国語母語話者では英語母語話者がより母語を使うことが明らかとなった。英語母語話者はテーマを選定したり、構成や内容を検討したりすることや文法や語彙に言及することのようなメタ的な使い方、中国語母語話者は日本語で書いたものを母語で読み返すことと日本語で書く前に母語で言語化してみることに、韓国語母語話者は

日本語で書く前に母語で言語化してみるこの頻度がより高いことが明らかになった。

③上級

日本語の作文過程において英語母語話者、中国語母語話者、韓国語母語話者では韓国語母語話者がより母語を使うことが明らかとなった。英語母語話者はテーマを選定したり、構成や内容を検討したりすることのようなメタ的な用い方、韓国語母語話者は日本語で書いたものを母語で読み返すことの頻度がより高いことが明らかになった。

(3)日本語レベルの違いによる作文過程の差異

日本語の作文過程において初級学習者、中級学習者、上級学習者では初級でより母語が用いられ、上級でより日本語が用いられていた。初級は編集、中級は文法や語彙に対して言及すること、上級は日本語で書いたものを母語で読み返すことの頻度が高かった。

さらに母語だけにかぎらない思考活動を見てみると、初級は「語、句を繰り返す」、中級は「論評・評価」、上級は「外部リソースによる助け」「書いた文、または文の一部を読み返す」「編集」「草稿を読む」の頻度が高かった。したがって、日本語のレベルが高い学習者は辞書を多く使用するほかに、書いたものを振り返りながら作文を書き進めていく活動を多く行っているということが明らかになり、推敲のためのストラテジーを身につけていることが示唆された。

(4)同じ母語における日本語レベルの違いによる作文過程の差異

①英語

英語母語話者の日本語の作文過程において、初級学習者と中級学習者では母語、上級学習者では日本語を使う割合が大きいことが明らかになった。中級学習者は文法や語彙に対して言及すること、上級学習者はテーマを選定したり、構成や内容を検討したりすることの頻度がより高いことが明らかになった。

②中国語

中国語母語話者の日本語の作文過程において、初級学習者では母語、上級学習者では日本語を使う割合が大きいことが明らかになった。初級学習者は日本語で書いたものを母語で読み返すことと編集、中級学習者は日本語で書く前に母語で言語化してみることに、上級学習者はテーマを選定したり、構成や内容を検討したりすることの頻度がより高いことが明らかになった。

③韓国語

韓国語母語話者の日本語の作文過程において、初級学習者では母語、中級学習者では日本語を使う割合が大きいことが明らかになった。初級学習者はテーマを選定したり、構成や内容を検討したりすることと、中級学習者は文法や語彙に対して言及すること、上級学習者は日本語で書いたものを母語で読み返すことの頻度がより高いことが明らかになった。

(5)日本語より先行する学習言語（英語）と母語の使用法の差異

日本語の作文過程において、母語である広東語は主に作文の進め方や内容を検討するためのメタ的言語として用いられ、学習言語である英語は、抽象的な語彙を産出するための助けや、作文中の感情を表すものとして用いられていることが示された。母語と学習言語の使用法を比較すると、母語のほうがより負荷の高い活動で使われているということがいえるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①石毛順子、英語・韓国語・中国語を母語とする中級日本語学習者の作文過程—母語使用の観点から—、留学生教育、査読有、第16号、2011、81-87

②石毛順子、マカオ人日本語学習者の日本語作文過程における広東語・英語使用の事例研究、アジア日本研究、査読有、第1号、2011、55-63

<http://www.ualliance-hmg.org/new/journal/2011-001.pdf>

③石毛順子、英語または韓国語を母語とする初級日本語学習者の作文過程—母語使用の観点から—、アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル、査読無、第3号、2011、1-8

<http://www.academicjapanese.org/journal03.html>

④石毛順子、「第二言語作文のプロセスモデルの構築」パイロット調査報告、アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル、査読無、第2号、2010、84-89

<http://www.academicjapanese.org/journal02.html>

[学会発表] (計7件)

①石毛順子、日本語学習者の作文過程の発達—母語使用の観点から—、2012年度日本語

教育学会春季大会、2012.5.27、拓殖大学

②石毛順子、中国語を母語とする中級・上級日本語学習者の作文過程の発達—母語使用の観点から—、日本発達心理学会第23回大会、2012.3.9、名古屋国際会議場

③石毛順子、英語または韓国語を母語とする初級・中級日本語学習者の作文過程の発達—母語使用の観点から—、2011年度日本語教育学会秋季大会、2011.10.9、米子コンベンションセンター

④石毛順子、母語使用の観点から見た中国語母語話者の日本語作文過程、日本教育心理学会第53回総会、2011.7.24、かでる2・7

⑤石毛順子、中級日本語学習者の作文過程—母語使用の観点から—、2011年度日本語教育学会春季大会、2011.5.22、東京国際大学

⑥石毛順子、英語母語話者の日本語作文過程の発達、日本発達心理学会第22回大会論文集、(震災のため、開催したものとするが参集なし)

⑦石毛順子、母語使用の観点から見た英語母語話者の日本語作文過程、日本教育心理学会第52回総会、2010.8.28、早稲田大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石毛順子 (ISHIGE JUNKO)

研究者番号：40526050